解説・報告

―産業動物獣医師就業研修報告―
帯広畜産大学における公開総合臨床学実習の概要

石井三都夫† 佐々木直樹 山田一孝 松井基純 羽田真悟
松本高太郎 古岡秀文 古林与志安 猪熊 壽 三宅陽一
（帯広畜産大学臨床獣医学研究部門）

石 井 三 都 夫

近年，日本の獣医学教育レベルは欧米諸国に比較して低いことが指摘されており，獣医学教育レベルを引き上げるための諸策が模索されている．また，産業動物に携わる獣医師の不足が大きな問題とされ，産業動物獣医師の養成と更なる輩出は急務とされている．一方で，国内の各大学における，大動物臨床教育の現状は，欧米諸国の獣医学系大学のそれらに比較して質，量ともに大きく不足し，決して十分なものとは言えない．その中で，帯広畜産大学は，大学周辺の十勝地域に50万頭近くの牛馬が飼養されており，近隣のNOSAIや農家との協力体制も整いつつある中，大動物獣医学教育の充実を積極的に推進してきた．

一方，農林水産省でも，獣医師育成・確保対策事業の一環として，民間団体を実施主体とした産業動物診療獣医師育成のための「産業動物獣医師就業研修」を平成

表1　馬専攻プログラム

	8:50～12:00	13:00～17:00	18:00～20:00
1日目	オリエンテーション 臨床診断法の基礎	眼科実習	懇親会
2日目	循環器内科実習	呼吸器内科・外科実習	仮想症例検討会
3日目	繁殖検診実習	跛行診断実習	仮想症例検討会
4日目	消化器病実習	麻酔実習	仮想症例発表会
5日目	整形外科実習	病理解剖実習 修了式	

表2　牛専攻プログラム

	8:50～12:00	13:00～17:00	18:00～20:00
1日目	オリエンテーション 臨床診断法の基礎	フィールド集団検診①	懇親会
2日目	繁殖学実習	臨床基礎技術実習	症例検討会
3日目	麻酔・外科手術実習①	外科手術実習②	症例検討会
4日目	病畜の診断実習	臨床検査実習	実習反省会
5日目	フィールド集団検診②	臨床病理実習 修了式	

図1　馬専攻参加者16名

図2　牛専攻参加者14名

† 連絡責任者：石井三都夫（帯広畜産大学臨床獣医学研究部門）
〒080-8555　帯広市稲田町西2線11　☎0155-49-5377　E-mail : mishii@obihiro.ac.jp

図3　馬の望診，視診，聴診，触診

図5　牛のエコー検査

図4　開腹手術実習

図6　往診先にて酪農家から意見を聞く

20年度より全国の獣医学部（学科）の学生向けに実施している．

平成21年度，本学のこれまでの取り組みが評価され，上記就業研修先に選定されたことから，本学の大動物総合臨床実習を獣医学系他大学学生に対する公開総合臨床実習（馬専攻：8月17～21日，牛専攻：8月24～28日）として実施したので，その概要を報告する．

本就業研修の実施場所となる各大学では，それぞれの特色を生かした教育がなされており，帯広畜産大学では「産業動物の獣医療に必要な基礎と応用技術を習得するために，帯広畜産大学独自のフィールドを生かした獣医療技術実習（診断・治療・予防・予後診断）について学ぶ（対象動物：馬・牛）」を目標に馬専攻カリキュラム（5日間）と牛専攻プログラム（5日間）を実施した．本就業研修の応募資格は，獣医学部（学科）の4年生及び5年生を対象としており，必要経費（実習費用，交通費，宿泊費）について補助（一定額まで無料）され，学生の経済負担をできるだけ軽減する措置がなされている．今回は募集人数に対し，応募者が多数となり書類選考の結果，本年度の受講者は5年生のみとなり，鹿児島大，鳥取大，東京大，農工大，麻布大，日獣大，日大，岩手大，北里大，酪農大の各大学から馬専攻16名（図1），牛専攻14名（図2）の参加となった．

馬専攻カリキュラムは，佐々木直樹准教授が中心となり，欧米の臨床獣医学教育を参考にし，臓器（眼，循環器，呼吸器，生殖器，運動器，消化器）別に基本的な獣医医療技術の習得を目指したカリキュラムが計画された（表1，図3）．夕食後の時間にも仮想症例検討会が行われ，4班に分かれた受講生が，仮想の症例に対し，検査法や治療法などの検討を行い，最終的には仮想症例の発表会も行われた．

牛専攻カリキュラムは，石井三都夫准教授を中心に考案され，牛のハンドリングから診断，各種手術までの技術について，実習畜ならびに，本学フィールド科学センターや酪農場に往診して実際の牛に触れ5感を使って考えることを基本に計画された．また，十勝NOSAIとの連携により集められた実際の難診断病畜7頭に対し各種の検査を行い，病態について検討した後に病理解剖にて最終的に確認を行う，総合的な病畜の診断実習も組み込まれた（表2，図4～6）．

かなりハードな実習内容にもかかわらず，受講者たちは皆，熱心に受講し，技術指導に対する質問や症例にお

けるディスカッションを活発に行っていた．開講式には，多数の大学から見知らぬ受講生の中で緊張感もあったが，修了式には，受講内容にも十分満足した様子で，皆，打ち解けて別れを惜しむ顔が印象的であった．

来年度（平成22年8月中旬から下旬）も「産業動物臨床研修」事業としての開催を希望しているが，今後も，帯広畜産大学は産業動物の獣医療に必要な基礎と応用技術の習得を目標として，実学を重んじた学部教育に積極的に取り組み，さらに大学の枠組みを超えて他大学学生を受け入れることで，我が国の産業動物獣医師の養成と輩出に努力する方針である．